

※結果分析(○できている ●できていない)  
〈学力調査〉

## 【国語】

- ほぼ全ての問題において全国平均を上回っていた。
- 「知識・技能」に関する問題においては全国平均を大きく上回っていた。
- 記述式の問題において全ての条件を満たすことができず、正答となっていない解答がいくつか見られた。  
→もう一度解答を見直し、「条件を全て満たしているか」を確認する必要がある。

## 【数学】

- 文字式で数量を表すこと(知・技)や1次関数の利用(思・判・表)の正答率が高かった。
- 文章の意味を把握し、情報の整理をすることは得意と考えられる。
- 基本的な既習事項を忘れていた生徒が多かった。  
→定期的に既習事項の復習をしておく必要がある。
- 証明の問題の正答率がやや低かった。情報を数学的に表現することが苦手な生徒が多い。  
→似たような問題を繰り返し実施しておく必要がある。
- 数学の問題を解く時間が足りないと感じている生徒がいる。(質問紙より)  
→問題を解く回数を増やし、問題に慣れておく必要がある。

〈学習状況調査〉

- 全体的に肯定的な意見が多い。
- 自己肯定感が高く、将来の目標を持って学校生活や学習活動に取り組んでいる。
- 学習時間も全体的に県や全国の平均を上回り、主体的に家庭学習にも取り組んでいる。
- 周囲から認められてきていると感じている。また、「困っている人がいるときは助ける」などの周囲との関わりも積極的にできている。
- 学習への工夫や取り組みも主体的にできている。
- 読書についても「好き」という意見が多く、全国平均よりも読書時間は上回っている。
- ICTに関するどの項目でも、肯定的な意見や積極的に取り組む姿勢が見られる。
- 自分の意見を積極的に発表する活動に対しても肯定的な意見や積極的に取り組む姿勢が見られる。
- 「日々の生活に幸福感を感じる」という項目が全国平均よりもやや低い。

※学校としての対応・目標

- ・「条件を満たして書く」「思い出す」「説明する」など、出力(アウトプット)を意識した活動や課題を国語と数学だけでなく、他教科においても意識的に設定します。
- ・生徒が学びを設定する場面や探究的に学ぶ場面を取り入れることで学習意欲の向上を図り、生涯に渡って主体的に学び続ける「自律的学習者」を育てます。
- ・集団や生徒個々の実態をふまえ、誰もが「わかった、できた」を実感できるように授業のユニバーサルデザイン化を目指します。また、授業を通して生徒間や生徒と教師との間の信頼関係づくりを目指します。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、  
よろしくお願いいたします。